

運営委員会だより

代表 瀧口典子

◇2018年スタート、今年もよろしく

みなさま、新年をどのようにお迎えてでしたか。我が家は孫が6人に増え賑やかなお正月でした。しかし、井野川周辺はスマートインターと工業団地の造成でズタズタに破壊され、水辺の鳥も少なくなってしまうました。政治の世界では、憲法9条の改定が日程にあがり、孫や若者が平和で自然豊かな地球で生活していけるのだろうか、不安が募り未来に希望が持てない心境です。

そうした心境に、一つだけ、希望を与えてくれたのは、昨年12月のノーベル平和賞のICANの行動と授賞式でのサーロー節子さんの講演です。彼女は、講演の最後にこう呼びかけました。「私は13歳の少女だった時に、くすぶるがれきの中に捕えられながら、前に進み続け、光に向かって動き続けました。そして生き残りました。今、私たちの光は核兵器禁止条約です。」「世界中のすべての皆さんに対して、広島廃墟の中で私が聞いた言葉をくり返したいと思います。『あきらめるな！（がれきを）押し続けろ！動き続けろ！光が見えるだろう？そこに向かってはって行け』と。

◇55年目の真実

私が17歳、高校2年生のことでした。化学の先生が、たぶん最後の授業の時に、自分は広島で原爆にあった、と話して下さいました。私の母校は大学受験一辺倒の超進学校で、「人生の師」に会えると期待していた私は、入学早々、失望し、自分を閉ざしていました。その中で、このM先生のお話しは、忘れられない思い出として胸に刻み込まれていました。きっと私たちを信頼し

て打ち明けて下さったのだと、教師としての生き方が伝わってきたように感じました。

その55年後、昨年11月のこと。同級生から、M先生のご息との食事会のお誘いが来ました。私は、参加できないとの返信に、ついあの授業のことを書きました。同級生は、二人のご息子にあれこれの思い出話の後で「思い切って、広島の話」をしたとのことでした。その後、ご息子から「父が我々家族に語らず、いや語れずに生きてきた人生を初めて垣間見ることができ、父の苦悩を初めて知ることが出来ました。我々家族には底抜けに明るい父でしたが、大きなモノを抱えて生きていたんだと改めて父の大きさを感じた次第です。」と感謝のメールが届いたそうです。M先生は42歳で亡くなられたとのことでした。

◇「いま生きているということ」

谷川俊太郎の詩「生きる」につなげて、学生が自分の思いを書いて交流した一部です。

☆星空を見上げ、流れ星が見えたとき、嬉しいと感じること

☆次の旅先に思いを巡らせること。

☆片思いが恋に変わるということ

☆好きな人の寝顔が見れるということ

☆それは怒りの感情が現れること。

☆それは少しずつ死に近づいていること。

☆あなたの「生きていること」は何ですか。

◇新年号のニュース、いかがですか。

私たちのエネルギーの素は皆さんからのお返事です。同封の葉書、FAXやメールでもかまいません。皆さんのつぶやきや作品、寄稿、なんでもお気軽にどうぞ。

今後の主な予定

2月11日（日）10時～

2月11日（日）13時半～

2月16日（金）・3月2日（金）13時～

2月17日（土）・3月17日（土）13時半～

3月24日（土）14時～

ぐんま教育のつどい（群馬県青少年会館）

群馬の歴史を考える会（前橋市桂萱公民館）

スタジオ楽書会（フォーラム）

三色パステルアート寺子屋（フォーラム）

近現代史ゼミ（前橋市総合福祉会館）

育ちと学び No. 35

ぐんま教育文化フォーラム

2018年2月2日 発行

〒371-0026 群馬県前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F

[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP電話] 050-3419-3803

[E-mail] g-kyoken@nifty.com

[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>

